

TOTTORI KETAKA AOYA
鳥取県気高郡青谷町

青谷町内遺跡発掘調査報告書 X

善田古墳群、露谷漆ヶ坪出土地、青谷上寺地遺跡、
大口古墳群、鳴滝宮坂遺跡、養郷村内出土地及び
山根上式田出土地、試掘調査報告書

2001.3

鳥取県気高郡

青谷町教育委員会

序 文

この報告書は、開発事業に伴い、国庫補助金及び県補助金を受けて、平成11年度及び平成12年度に実施した青谷町内遺跡の試掘調査記録です。

青谷町は、自然環境に恵まれ、東西の丘陵に挟まれた地域には、有形・無形の文化遺産が数多く残っています。特に平成10年度から実施されてきた青谷上寺地遺跡の発掘調査では、弥生時代の祭祀場跡、優れた木製品、鉄製品など弥生時代のイメージを一新させる重要な発見が相次いでいます。

近年は、社会の進展に伴って、各種開発事業が計画・実施され、さらに増加する傾向にあります。文化財保護を推し進めている私共といたしましては、こうした開発と文化財の共存をはかるべく諸関係機関と協議を重ね、円滑に文化財行政を進めているところです。

この調査にあたっては、鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センターをはじめ関係各位の格別なご指導・ご協力を仰ぎながら、土地所有者や作業員の方々の熱意により、ようやく調査を終了することができました。ここに深く感謝を申し上げます。

なお、この報告書は不十分な所も多くありますが、私たちの郷土理解に役立てていただくとともに、今後の調査研究の一助となれば幸いです。

平成13年 3月

青谷町教育委員会

教育長 久野 浩太郎

例 言

1. 本報告書は、平成11年度及び平成12年度国庫補助金及び県補助金を受けて青谷町教育委員会が実施した青谷町内遺跡発掘調査の記録である。
2. 本発掘調査事業は、真砂土採取事業計画に伴う善田古墳群、大口古墳群、宅地分譲事業計画に伴う露谷漆ヶ坪出土地、養郷村内出土地、青谷町福祉施設建設事業に伴う青谷上寺地遺跡、農地造成に伴う鳴滝宮坂遺跡、和紙の里建設事業計画に伴う山根上式田出土地の範囲と性格を確認し、工事との調整を図るため行った試掘調査である。
3. 発掘調査及び報告書作成にあたっては、鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センターの指導と協力を得た。
4. 本書の作成は、調査員の森・加川が協議しながら、執筆・編集を行った。
5. 本書に使用した方位は磁北で、実測図の縮尺は原則として遺構1/80、遺物1/3で示し、土色及び土器類の色調を表すには農林水産技術会議事務局監修「標準土色帳」によった。地図は国土地理院の承認を得て作成された「青谷町全図」の5万分の1の地図を利用した。
6. 本書における遺構、遺物の略号は次のように示す。
T：トレンチ　SD：溝状遺構　SX：埋葬施設　SK：土壙　P：ピット　Po：土器
7. 発掘調査で得られた日誌・図面・写真・遺物等は、青谷町教育委員会で保管する。

調査関係者

調査主体	青谷町教育委員会
調査団長	久野浩太郎（青谷町教育委員会教育長）
調査員	森　佳樹（青谷町教育委員会事務局生涯学習係長） 加川　崇（青谷町教育委員会事務局生涯学習係主事）
事務局	姫田　弘新、政門　紘幸、森　佳樹、濱田　寿之 加川　崇（以上青谷町教育委員会事務局）
調査指導	鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センター
作業協力	現場作業員　伊藤　節子、北島チズ子、小谷　恭子、正木住美枝、田中　清江 田中　知儀、谷口勢津子、中林　和幸、橋本　健、濱田佐奈枝 前田　繁、水砂　順吉、村上　秀夫、青谷中学校生徒 整理作業員　伊藤　節子、濱田佐奈枝、田中　清江

本文目次

第1章 発掘調査の経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第3章 調査の概要	5
第1節 善田古墳群	5
(1) 調査の方法	5
(2) トレンチの概要	6
第2節 露谷漆ヶ坪出土地	9
(1) 調査の方法	9
(2) トレンチの概要	9
第3節 青谷上寺地遺跡	10
(1) 調査の方法	10
(2) トレンチの概要	10
第4節 大口古墳群	11
(1) 調査の方法	11
(2) トレンチの概要	11
第5節 鳴滝宮坂遺跡	13
(1) 調査の方法	13
(2) トレンチの概要	14
第6節 養郷村内出土地	15
(1) 調査の方法	15
(2) トレンチの概要	15
第7節 山根上式田出土地	16
(1) 調査の方法	16
(2) トレンチの概要	16
第4章 ま と め	17

挿図目次

挿図1 青谷町内の主な遺跡分布図	3
挿図2 善田古墳群トレンチ配置図	5
挿図3 善田古墳群第6トレンチ平面図及び土層図	7
挿図4 善田古墳群第7トレンチ平面図及び土層図	7
挿図5 善田古墳群第12トレンチ平面図及び土層図	7
挿図6 善田古墳群第13トレンチ平面図及び土層図	7
挿図7 善田古墳群第14トレンチ平面図及び土層図	7
挿図8 善田古墳群出土遺物実測図	9
挿図9 露谷漆ヶ坪出土地トレンチ配置図	9
挿図10 青谷上寺地遺跡トレンチ配置図	10
挿図11 大口古墳群トレンチ配置図	11

挿図12	大口古墳群第2トレンチ平面図及び土層図	12
挿図13	大口古墳群第3トレンチ平面図及び土層図	12
挿図14	大口古墳群第4トレンチ平面図及び土層図	12
挿図15	大口古墳群出土遺物実測図	13
挿図16	鳴滝宮坂遺跡トレンチ配置図	13
挿図17	鳴滝宮坂遺跡第3トレンチ平面図及び土層図	14
挿図18	鳴滝宮坂遺跡第4トレンチ平面図及び土層図	14
挿図19	鳴滝宮坂遺跡出土遺物実測図	14
挿図20	養郷村内出土地トレンチ配置図	15
挿図21	山根上式田出土地トレンチ配置図	16

表 目 次

表1	善田古墳群トレンチ一覧表	5
表2	善田古墳群出土遺物観察表	9
表3	露谷漆ヶ坪出土地トレンチ一覧表	10
表4	青谷上寺地遺跡トレンチ一覧表	10
表5	大口古墳群トレンチ一覧表	11
表6	大口古墳群出土遺物観察表	13
表7	鳴滝宮坂遺跡トレンチ一覧表	14
表8	鳴滝宮坂遺跡出土遺物観察表	15
表9	養郷村内出土地トレンチ一覧表	15
表10	山根上式田出土地トレンチ一覧表	16

図 版 目 次

図版1	善田古墳群第6トレンチ土層 善田古墳群第7トレンチ土層 善田古墳群第13トレンチ 善田古墳群第14トレンチ土層検出状況 善田古墳群第14トレンチ遺物出土状況 善田古墳群第14トレンチ土層 善田古墳群出土遺物
図版2	露谷漆ヶ坪出土地第2トレンチ 青谷上寺地遺跡遠景 青谷上寺地遺跡第2トレンチ 大口古墳群遠景 大口古墳群第2トレンチ 大口古墳群第2トレンチ土層 大口古墳群第2トレンチ遺物出土状況
図版3	大口古墳群第3トレンチ 大口古墳群第4トレンチ 大口古墳群出土遺物 鳴滝宮坂遺跡遠景 鳴滝宮坂遺跡第3トレンチ 第3トレンチピット検出状況 鳴滝宮坂遺跡第4トレンチ
図版4	鳴滝宮坂遺跡出土遺物 山根上式田出土地第7トレンチ 養郷村内出土地遠景 養郷村内出土地第3トレンチ

第1章 発掘調査の経緯

(1) 善田古墳群

この地域は以前の踏査で古墳あるいは曲輪と考えられる平坦地を確認しており、すでに周知の遺跡となっていた。試掘調査では調査地を2地区に分け、合計16カ所のトレンチを設定した。調査期間は2000年1月12日から3月16日、2001年2月22日から2001年3月7日までである。

(2) 露谷漆ヶ坪出土地

この地域は以前の踏査で土師器片を表採しており、すでに周知の遺跡となっていた。試掘調査では開発区域内に3カ所のトレンチを設定した。調査期間は2000年3月1日から3月3日までである。

(3) 青谷上寺地遺跡

青谷上寺地遺跡は1996年から1998年にかけて3度の試掘調査が行われ、多量の土器、杭列が確認された。さらに1998年から2000年にかけて財団法人鳥取県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われ、その結果、祭祀場、河川の護岸工事、水田などの遺構が確認された。また大量の弥生土器、骨角器、鉄製品、木製品、人骨等が出土している。

今回の試掘調査では開発区域内に4カ所のトレンチを設定した。調査期間は2000年4月3日から4月4日までである。

(4) 大口古墳群

この地域では1984年に大口第1遺跡、1988年に大口第2遺跡、1994年、1999年に大口第3遺跡の発掘調査が行われ、住居跡や土壇墓、供献祭祀の遺構などが確認されている。

試掘調査では開発区域内に5カ所のトレンチを設定した。調査期間は2000年8月21日から2000年9月19日までである。

(5) 鳴滝宮坂遺跡

この周辺では土器の散布が確認されており、開発区域内も遺跡の存在する可能性があった。

試掘調査では開発区域内に5カ所のトレンチを設定した。調査期間は2000年9月25日から10月3日までである。

(6) 山根上式田出土地

この地域では土器の散布が確認されており、周知の遺跡となっていた。

試掘調査では開発区域内に7カ所のトレンチを設定した。調査期間は2000年12月15日から12月21日までである。

(7) 養郷村内出土地

この地域では土器の散布が確認されており、すでに周知の遺跡となっていた。

試掘調査では開発区域内に3カ所のトレンチを設定した。調査期間は2001年2月13日から2月20日までである。

第2章 遺跡の位置と環境

青谷町は、鳥取県の中央よりやや東に位置し、東部地域の西端、旧国名でいえば因幡国に属し、伯耆国との国境にある。北は日本海に面し、東は気高町、西は泊村・東郷町、南は鹿野町・三朝町に隣接し、東西約7.7km、南北約13kmと南北に長く、面積約68.3km²の町である。

町の南域は標高500mを超す山地で、そこから北へ伸びる溶岩台地が町の東西を取り囲み町界をなしている。溶岩台地の北端は長尾鼻、オゴノ鼻と続き、30mをこえる断崖となって日本海に突出している。また、溶岩台地の東を日置川、西を勝部川が流下し、河口近くで合流し日本海に注いでいる。合流地点付近に沖積平野、海岸部に砂丘が形成されている。町内の砂浜は、全国的にも珍しい鳴り砂の浜として知られている⁽¹⁾。

町内の遺跡は、確認されているものだけでも約450カ所あり、その大半は古墳である。

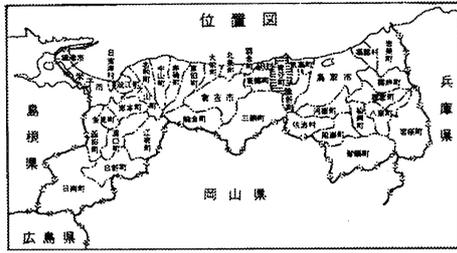
今回調査した善田古墳群(A)は青谷町の中央部北側にある善田集落西側の丘陵上に位置し、約13基の古墳からなる。周辺には大平田城跡(13)、小平田蔵谷城跡(14)⁽¹⁾が存在しており、善田古墳群に点在する平坦地は城跡とも考えられる。また谷の対岸尾根上に南東側には奥崎古墳群(16)があり、西側には露谷古墳群(15)が存在する。

露谷漆ヶ坪出土地(B)は露谷集落の北側に位置し、周辺には青谷上寺地遺跡、露谷古墳群が存在する。

青谷上寺地遺跡(C)は青谷町の中央西側を流れる勝部川下流域の沖積平野東側に位置し、町の中央の丘陵山裾部にあたる。この青谷上寺地遺跡では、1997年、1998年に試掘調査、1998年から1999年にかけて財団法人鳥取県教育文化財団による発掘調査が行われ、弥生時代の祭祀場跡やそれに伴う木製品などの遺物、大規模な護岸工事の跡などが確認されている。また縄文時代から中世にかけての多量の土器等も出土している⁽²⁻⁶⁾。この周辺の遺跡としては丘陵北端部に露谷古墳群が存在する。西側丘陵裾部には須恵器等が出土した岩本遺跡(31)が、丘陵上にはほぼ完形の土器が出土した青谷第4遺跡⁽⁷⁾(33)、相屋神社⁽⁸⁾(32)、吉川古墳群(34)が存在する。

大口古墳群(D)は日置川によって形成された東側の沖積平野南端部西方の丘陵から東へ向かって派生した尾根の丘陵上に位置する。尾根続きの丘陵にはすでに消滅したが大口第1遺跡(18)、大口第2遺跡(19)、大口第3遺跡(20)が存在する。大口第1、第2遺跡は、1984年・1988年に発掘調査が行われ、弥生時代後期から古墳時代にかけての土壌墓や多数の貯蔵穴、竪穴住居跡、墳墓などが確認されている。大口第3遺跡は1994年、1999年に発掘調査が行われ、ピット群、住居跡、古墳などが確認されている⁽⁶⁻⁹⁻¹³⁾。ま

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| A 善田古墳群 | 10 蔵内古墳群 | 26 神前神社 |
| B 露谷漆ヶ坪出土地 | 11 蔵内上長谷第2遺跡 | 27 鳴滝宮ノ前遺跡 |
| C 青谷上寺地遺跡 | 12 蔵内上長谷第4遺跡 | 28 鳴滝古墳群 |
| D 大口古墳群 | 13 大平田城跡 | 29 山田横道遺跡 |
| E 鳴滝宮坂遺跡 | 14 小平田蔵谷城跡 | 30 山田淡谷東平遺跡 |
| F 養郷村内出土地 | 15 露谷古墳群 | 31 岩本遺跡 |
| G 山根上式田出土地 | 16 奥崎古墳群 | 32 相屋神社 |
| 1 長尾鼻古墳群 | 17 大坪古墳群 | 33 青谷第4遺跡 |
| 2 長尾鼻1号墳 | 18 大口第1遺跡 | 34 吉川古墳群 |
| 3 青谷第1遺跡 | 19 大口第2遺跡 | 35 吉川43号墳 |
| 4 東山古墳 | 20 大口第3遺跡 | 36 井手古墳群 |
| 5 阿古山古墳群 | 21 カヤマ遺跡 | 37 長和瀬古墳群 |
| 6 阿古山22号墳 | 22 早牛宝免遺跡 | 38 長谷古墳群 |
| 7 養郷古墳群 | 23 早牛古墳群 | 39 釜ノ口古墳群 |
| 8 養郷10号墳 | 24 利川神社 | 40 長和瀬稲葉尾遺跡 |
| 9 蔵内水船遺跡 | 25 亀尻古墳群 | 41 幡井神社 |



挿図1 青谷町内の主な遺跡分布図

た同じ丘陵の山裾部にあり、1981年に発掘調査が行われたカヤマ遺跡(21)⁽¹⁴⁻¹⁶⁾では、弥生時代から奈良時代にかけての住居跡や古墳などが確認されている。その南側には早牛宝免遺跡(2)、早牛古墳群(3)、すぐ北側には大坪古墳群(7)が存在している。

鳴滝宮坂遺跡は(E)は鳴滝集落東側の丘陵上に位置する散布地である。周辺には山田横道遺跡(29)、1996年に発掘調査が行われ、礎石建造物跡等が確認された山田淡谷東平遺跡(30)⁽³⁾が存在する。

養郷村内出土地(F)は養郷集落の周辺に存在する散布地である。周辺には、横穴式石室内に2基の箱式石棺が安置され町の史跡に指定されている養郷10号墳(8)を有する養郷古墳群(7)が存在する。

山根上式田出土地(G)は日置川上流にある山根集落の中程に位置する散布地である。

その他の青谷町内の主な遺跡は、次のとおりである。

旧石器時代の遺跡は、今のところ確認されていない。縄文時代の遺跡としては、砂丘地にある青谷高校の井戸掘り作業中に偶然発見された青谷第1遺跡(3)⁽¹⁷⁾がある。ここでは、縄文時代中期から弥生時代、古墳時代にかけての土器片が出土している。このほか縄文時代の遺跡としては、縄文時代前期の土器片の散布が確認された蔵内上長谷第2遺跡⁽¹⁶⁾(11)、1995年に試掘調査が行われ、縄文時代後期の土器片が出土した蔵内上長谷第4遺跡⁽¹⁶⁾(12)、石皿の出土した長和瀬稲葉尾遺跡⁽¹⁷⁾(40)がある。

弥生時代の遺跡は、大口第1・第2遺跡、カヤマ遺跡、早牛宝免遺跡、前述の青谷第1遺跡、青谷第4遺跡、青谷上寺地遺跡、1981年に発掘調査が行われた蔵内水船遺跡⁽¹⁸⁾(9)、絹見部落周辺の土器・石斧出土地、北河原での抉入石斧出土地などがある。

古墳時代には、町の中央と東西の丘陵やその山裾に多数の古墳が造営された。今のところ古墳や集落・散布地等の分布は、海岸から約6km以内に限られている。町内の古墳は、ほとんどが直径10~20m程度の円墳と考えられ、海岸に向けて伸びる3つの丘陵台地上ないしは山裾部に存在する。

東側の台地・丘陵上には、北側から町内最大の前方向後円墳である長尾鼻1号墳(全長34m)(2)を有する長尾鼻古墳群(1)、町内第2の前方向後円墳である東山古墳(全長28m)(4)、船や星の線刻壁画が施された阿古山22号墳(6)を有する阿古山古墳群⁽¹⁹⁾(5)、前述の養郷古墳群(7)、蔵内古墳群(10)と続く。

次に中央の丘陵には、北から露谷古墳群、その西に亀尻古墳群(25)、東に善田古墳群があり、さらに南東には町の史跡に指定されている奥崎古墳群、大坪古墳群、大口古墳群、早牛古墳群が連なっている。また西側丘陵上には前述の山田横道遺跡(29)、その丘陵の谷に面した山裾には、金環が出土した鳴滝古墳群(28)がある。

最後に西側の丘陵上には、相屋神社(32)から南方の丘陵には100基以上の古墳が連なり、船の線刻壁画が描かれた吉川43号墳(35)を有する吉川古墳群が存在し、またその西側の丘陵上には北から井手古墳群(36)、長和瀬古墳群(37)、長谷古墳群(38)、釜ノ口古墳群(39)と続いている。

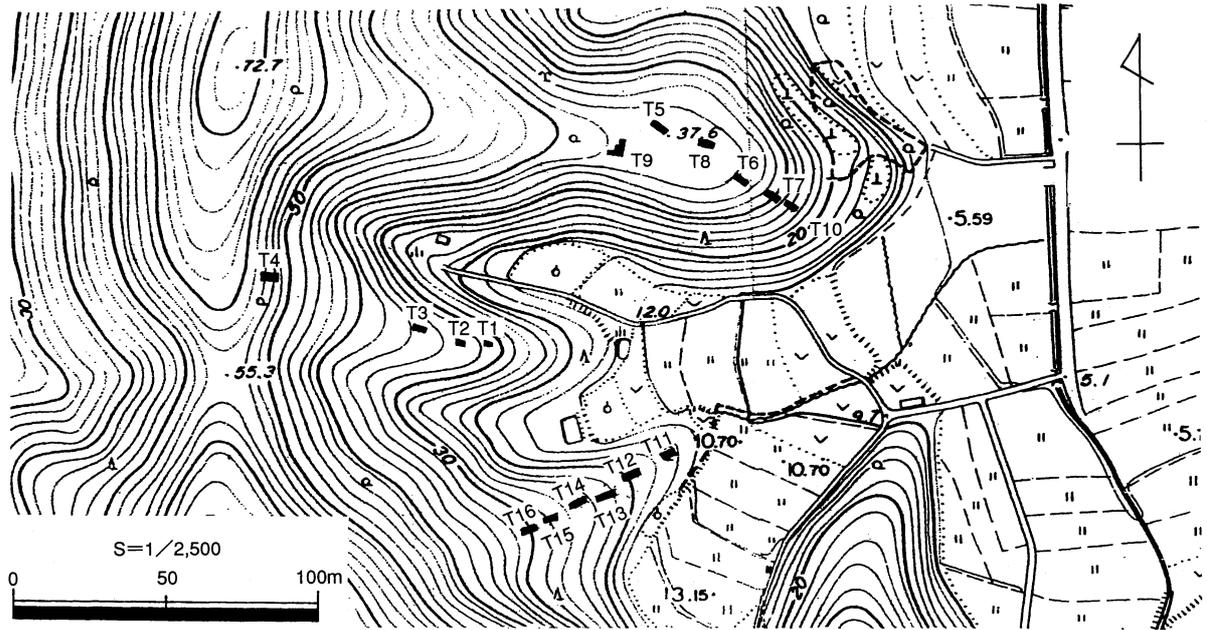
この時代の古墳以外の遺跡は、縄文・弥生時代の項で述べたように、青谷第1遺跡、青谷上寺地遺跡、大口第1遺跡、大口第2遺跡、カヤマ遺跡、早牛宝免遺跡が主なものである。

奈良時代以降の遺跡としては、前述の青谷上寺地遺跡、カヤマ遺跡、山田淡谷東平遺跡、1999年に発掘調査が行われた鳴滝宮ノ前遺跡⁽²⁰⁾(27)がある。

歴史上の資料としては因幡国の官道に置かれた4カ所の駅のうちの「柏尾駅」の有力な候補地といわれる相屋神社周辺や、勝部・日置といった部民制度に由来するといわれる郷名が残っている⁽⁸⁾。また時代はやや下るが、町内の式内社である利川神社(24)と幡井神社(41)がそれぞれに早牛・絹見に、式外社である相屋神社と神前神社(26)がそれぞれ青谷・鳴滝にあることは⁽⁸⁾、遺跡との関わりが考えられる。

第3章 調査の概要

第1節 善田古墳群



挿図2 善田古墳群トレンチ配置図

(1) 調査の方法

この周辺には大平田城跡、善田古墳群といった遺跡が存在しており、その範囲が開発区域内に及ぶ可能性が考えられる。このため真砂土採取事業が計画されている区域内の平坦地及びその斜面地において、1.0m×4.0mを基準としたトレンチを16ヶ所に設定し、掘り下げを行った。第1トレンチから第4トレンチは開発区域内中央に張り出した尾根上に、第5トレンチから第10トレンチは北側の尾根上に、第11トレンチから第16トレンチは南側の尾根上にそれぞれ設定した。

トレンチ番号	トレンチの規模 (m)	遺構	遺物
T 1	1.5×2.5		
T 2	1.5×3.0		
T 3	1.5×4.0		
T 4	1.5×3.8		
T 5	1.3×5.0		
T 6	1.3×4.0	周溝	土師器
T 7	1.5×3.7	周溝	土師器
T 8	1.5×4.0		
T 9	3.5×4.2		
T10	1.5×4.0		
T11	1.5×4.3		
T12	1.5×6.3	ピット	土師器
T13	1.5×6.0		
T14	1.5×8.2	ピット 溝状遺構 土壇	土師器
T15	1.5×5.0		
T16	1.5×5.0		

表1 善田古墳群トレンチ一覧表

(2) トレンチの概要

第1～第4トレンチ

これらのトレンチは工事区域内中央に張り出した尾根上に緩斜面もしくは平坦地を中心に設定した。各トレンチとも30cmから60cm程度掘り下げたが、遺構・遺物は検出できなかった。

第5・第8～第10トレンチ

これらのトレンチは開発区域内北側の尾根上に設定した。これらのトレンチは約50cm掘り下げたが遺構、遺物は検出できなかった。

第6トレンチ

このトレンチは第5トレンチの南東側約40mに1.3m×4.0mの規模で設定した。約40cm掘り下げたところで灰黄褐色土に達した。さらに掘り下げたところ、地山がU字状に落ち込む周溝 (SD01) となった。遺物は土師器が出土したが、いずれも小片のため図化できなかった。

第7トレンチ

このトレンチは第6トレンチの南東側に1.5m×3.7mの規模で設定した。約50cm掘り下げたところで周溝 (SD02) を確認した。

遺物は土師器が出土したが、いずれも小片のため図化できなかった。

第11・15・16トレンチ

これらのトレンチは開発区域内南側の尾根上に設定した。これらのトレンチでは約30cm程度掘り下げたが遺構、遺物は検出できなかった。

第12トレンチ

このトレンチは1.5m×6.3mの規模で平坦地から斜面地にかけて設定した。平坦地側は約15cm掘り下げたところで地山を確認した。またトレンチのほぼ中央部からはピット (P01) と考えられる落ち込みを確認した。

遺物はピットの上面から土師器が出土しているが、小片のため図化はできなかった。

第13トレンチ

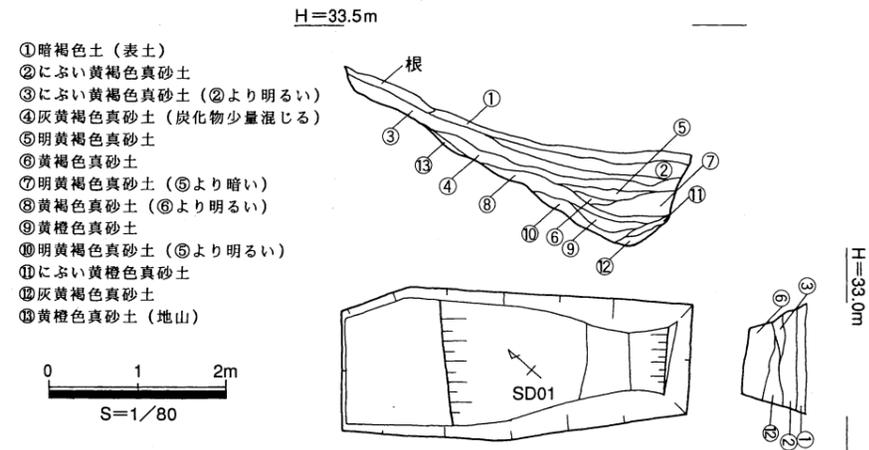
このトレンチは1.5m×6.0mの規模で斜面地から平坦地にかけて設定した。斜面地では盛土を施したような痕跡を確認した。またやや落ち込むような土層を確認した。

遺物は確認できなかった。

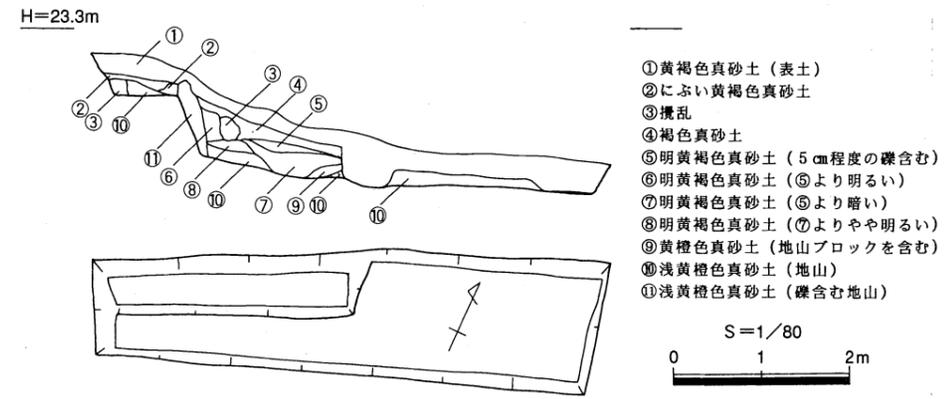
第14トレンチ

このトレンチは1.5m×8.2mの規模で平坦地に設定した。表土を約15cm掘り下げたところでトレンチの西側に土壌 (SK01) と考えられる落ち込みの土層を確認した。また浅い溝状遺構 (SD03) 及びピット (P02) と考えられる落ち込みを確認した。

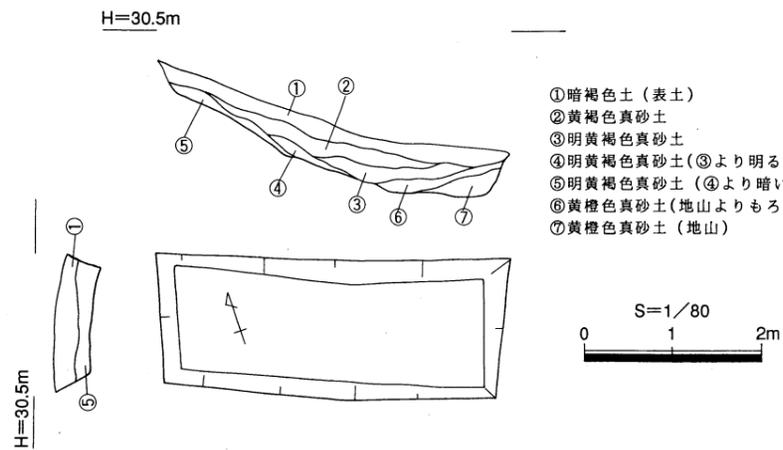
遺物はトレンチ西側から集中して出土しており、図化できたのは土師器甕 (Po01)、鼓形器台 (Po02)、高坏坏部 (Po03) の3点である。



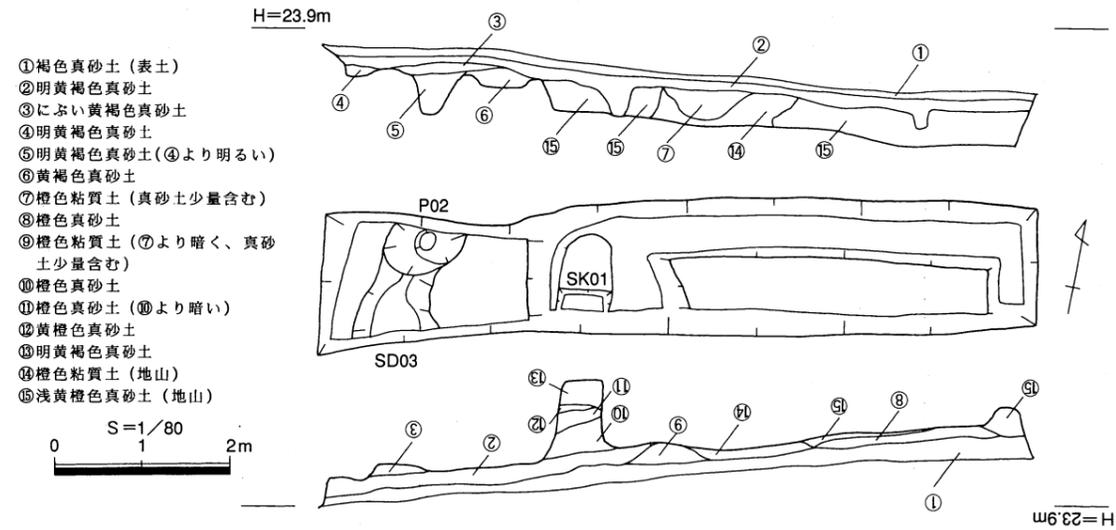
挿図3 善田古墳群第6トレンチ平面図及び土層図



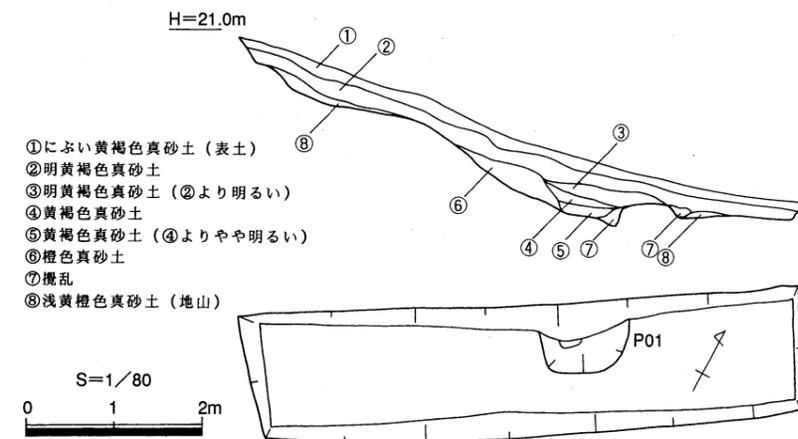
挿図6 善田古墳群第13トレンチ平面図及び土層図



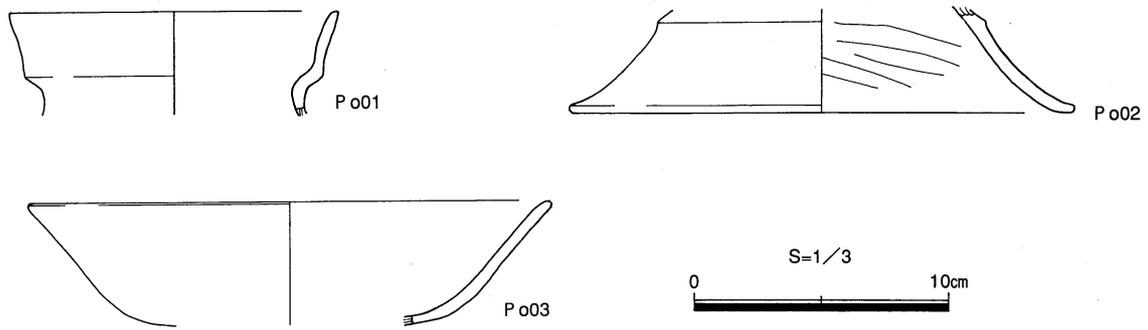
挿図4 善田古墳群第7トレンチ平面図及び土層図



挿図7 善田古墳群第14トレンチ平面図及び土層図



挿図5 善田古墳群第12トレンチ平面図及び土層図



挿図8 善田古墳群出土遺物実測図

出土位置	土器番号	取上番号	品種	法量 (cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
T14	Po1	01	土師器甕	①12.8※ ②4.0△	ほぼ直立気味に外反する複合口縁。端部は丸くおさめる。屈曲部は水平に突出する。	外) 風化著しく不明 内) ナデ	密	良好	内外面とも黄橙色	
	Po2	02	土師器鼓形器台	②4.1△ ③19.8※	「ハ」字状に開く脚部。端部は外反し、丸くおさめる。屈曲部の稜は突出していない。	外) ナデ 内) ケズリ	密	良好	外) ぶい黄橙色 内) ぶい橙色	
	Po3	03	土師器高坏坏部	①20.2※ ②4.9△	やや外反気味に外傾する。端部は丸くおさめる。	内外面……風化著しく不明	密	良好	外) 橙色 内) ぶい橙色	

註…法量の○数字は次のとおりとする。①口径、②器高、③底部径、である。復元した計測値に※印、残存値に△印を付した。

表2 善田古墳群出土遺物観察表

第2節 露谷漆ヶ坪出土地

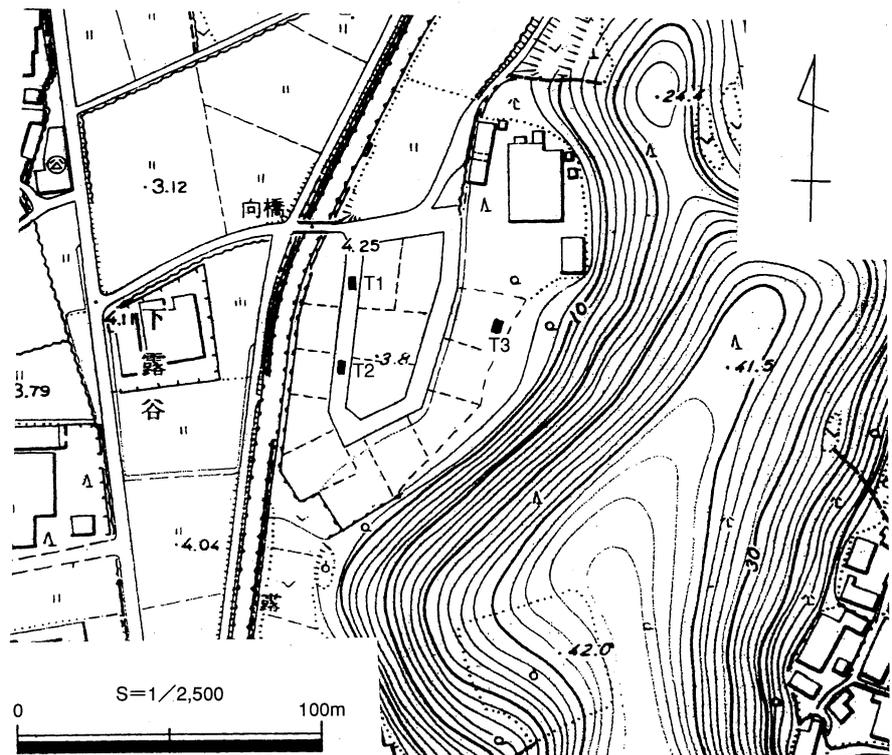
(1) 調査の方法

事前踏査時に周辺で土師器片を採取することができた。また周辺には青谷上寺地遺跡が存在する。そのため住宅建設予定区域内に、1.5m×4.0mの規模で試掘トレンチを3ヶ所設定し、掘り下げを行った。

(2) トレンチの概要

第1～第3トレンチ

これらのトレンチは、工事予定区域内に1.5m×4.0mの規模で設定した。各トレンチ



挿図9 露谷漆ヶ坪出土地トレンチ配置図

は表土を除去するとマコモを含む粘質土が厚く堆積していた。また掘り下げの途中で壁面あるいは下層より湧水が著しくなり掘り下げを断念しなければならなかった。

遺構は検出できなかった。遺物は第2トレンチより土師器片が出土している。しかし小片のため図化できなかった。

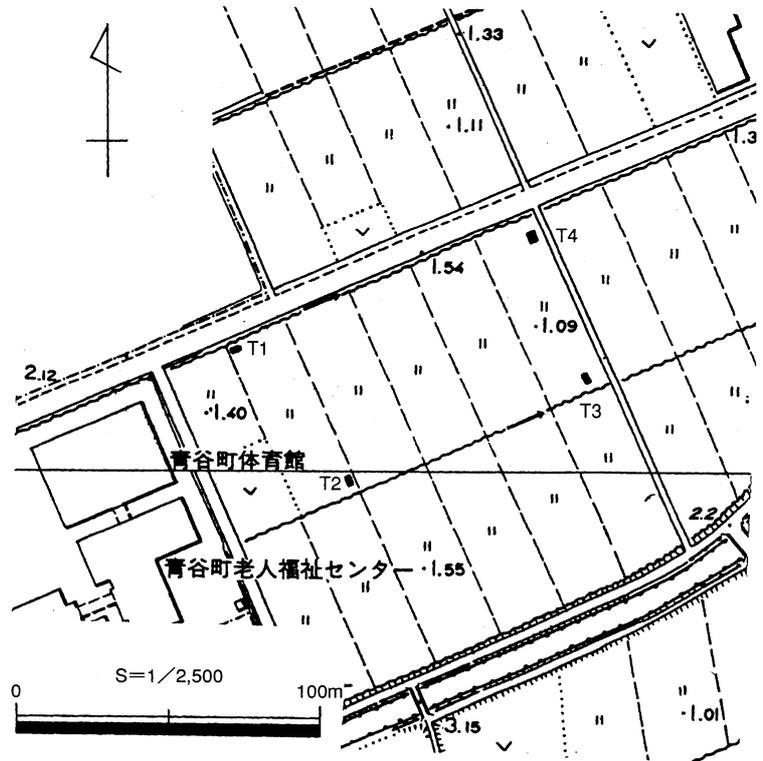
トレンチ番号	トレンチの規模 (m)	遺構	遺物
T 1	2.0×4.0		
T 2	2.0×4.0		土師器
T 3	2.0×4.0		

表3 露谷漆ヶ坪出土地トレンチ一覧表

第3節 青谷上寺地遺跡

(1) 調査の方法

この遺跡は1996年から2000年まで試掘調査及び発掘調査が実施されており、弥生時代の護岸工事、祭祀場の跡、水田、多量の土器及び木製品などが出土している。また現在でも遺跡の範囲は確認されておらず、周辺に広がっていると考えられている。このためこの周辺の開発についてはこの遺跡の名前を用いて調査を行うことにしている。また遺物包含層まで約1.0m掘り下げるため、重機を用いて掘り下げることにした。トレンチ箇所は4カ所である。



挿図10 青谷上寺地遺跡トレンチ配置図

(2) トレンチの概要

第1・第2トレンチ

このトレンチは開発予定区域内の南西側に設定し、掘り下げを行った。約70cmから80cm掘り下げたところでマコモを含む層に達した。その後約115cm掘り下げたところで川砂を含む層に達した。約35cm掘り下げたところで貝殻を含む粘質土層に達した。

遺構、遺物ともに検出できなかった。

トレンチ番号	トレンチの規模 (m)	遺構	遺物
T 1	1.5×3.5		
T 2	2.5×4.0		
T 3	2.0×5.0		
T 4	2.0×3.7		

表4 青谷上寺地遺跡トレンチ一覧表

第3トレンチ

このトレンチは開発予定区域内の南東側に設定し、掘り下げを行った。約50cm掘り下げたところでマコモを含む層に達した。さらに約40cm掘り下げたところ貝片、木片を少量含む層に達した。その後約50cm掘り下げたところで貝殻を含む層に達した。

遺構、遺物ともに検出できなかった。

第4トレンチ

このトレンチは開発予定区域内の北側に設定し、掘り下げをおこなった。約70cm掘り下げたところでマコモを含む層に達した。さらに約50cm掘り下げたところで河川の氾濫と考えられる砂を含む層に達した。その後約50cm掘り下げたところで貝殻を含む層に達した。

遺構、遺物ともに検出できなかった。

第4節 大口古墳群

(1) 調査の方法

この遺跡の周辺は大口第1遺跡、大口第2遺跡、大口第3遺跡として発掘調査が行われ、ピット、古墳、住居跡等が多数確認されている。このため真砂土採取事業が計画されている区域内の尾根上にある平坦地を中心に1.0m×4.0mを基準としたトレンチを5カ所に設定し、掘り下げを行った。

トレンチ番号	トレンチの規模 (m)	遺構	遺物
T 1	1.7×4.0		土師器
T 2	1.5×3.8	周溝	土師器
T 3	1.5×4.0	主体部	土師器
T 4	1.3×4.0	周溝	土師器
T 5	1.4×5.0		

表5 大口古墳群トレンチ一覧表

(2) トレンチの概要

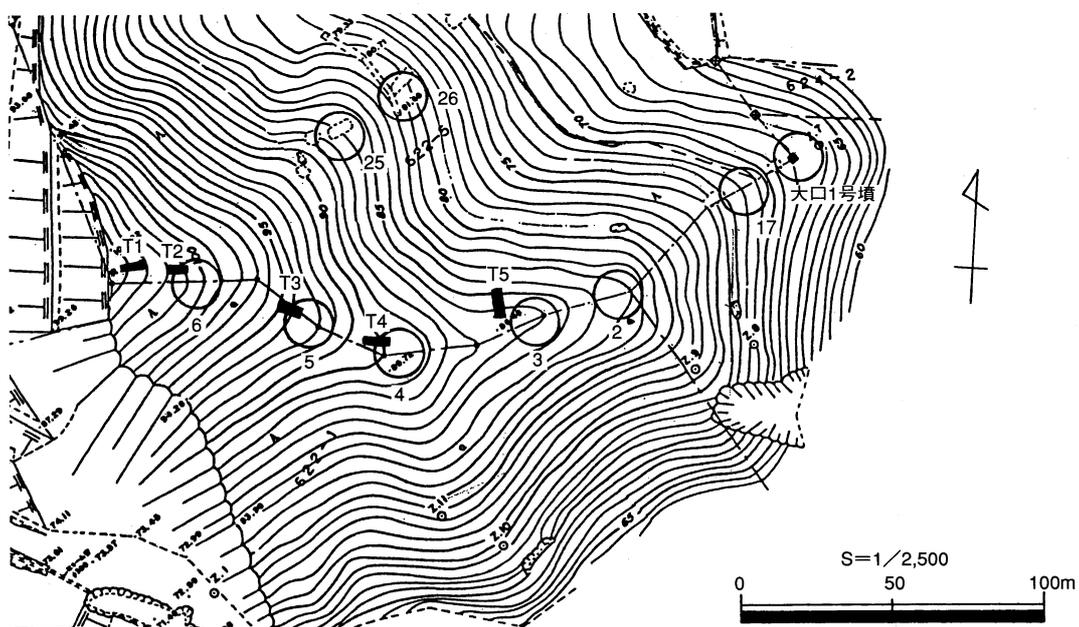
第1トレンチ

このトレンチは尾根の西端に1.7×4.0mの規模で設定した。このトレンチでは約40cm掘り下げたところで地山に達した。

遺構は検出できなかった。遺物は表土中と地山上面で土師器が出土した。しかし小片のため図化できなかった。

第2トレンチ

このトレンチは第1トレンチの東側に1.5m×3.8mの規模で斜面地から平坦面にかけて設定した。このトレンチでは約30cm掘り下げたところ石棺に使用されたと考えられる板状安山岩の破片を検出した。また斜面部分では周溝 (SD01) と考えられる落ち込みを確認した。



挿図11 大口古墳群トレンチ配置図

遺物は土師器が出土しており、図化できたものは鼓形器台 (Po01)、高坏 (Po02) である。

第3トレンチ

このトレンチは第2トレンチの東側に1.5m×4.0mの規模で緩斜面に設定した。表土から約15cm掘り下げたところで50cm程度の石を検出した。また表土から約30cm掘り下げたところで土壌 (SX01) と考えられる落ち込みを検出した。

遺物は石の周辺で土師器が出土している。図化できたものは高坏脚部 (Po03)、鼓形器台 (Po04) である。

第4トレンチ

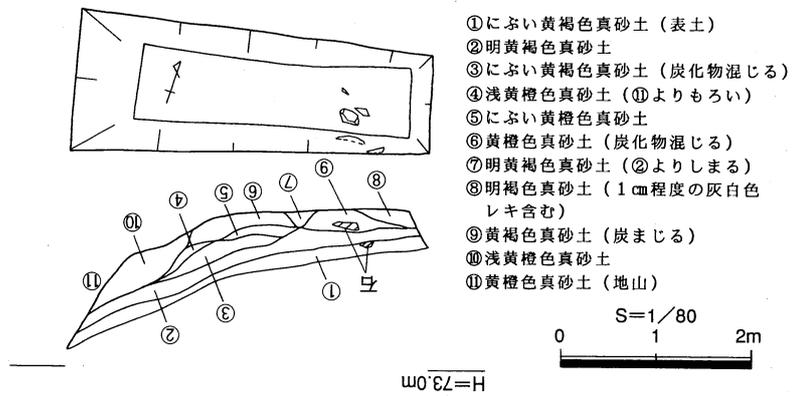
このトレンチは第3トレンチの東側に1.3m×4.0mの規模で斜面地から平坦面にかけて設定した。表土を掘り下げたところで斜面側に周溝 (SD02) と考えられる落ち込みを検出した。また平坦地側では盛土と考えられる第8層を確認した。

遺物は土師器が出土しているがいずれも小片のため図化できなかった。

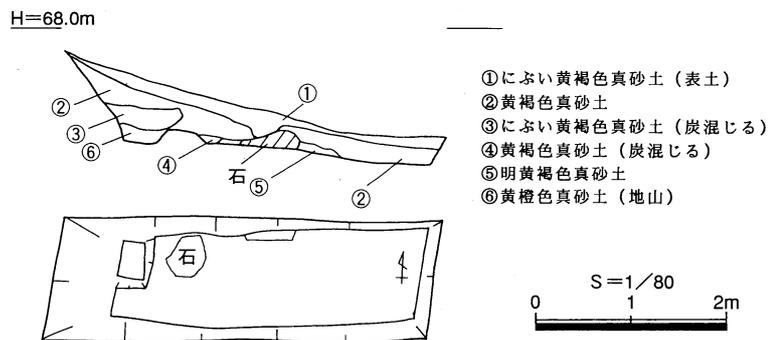
第5トレンチ

このトレンチは第4トレンチの北東側に1.4m×5.0mの規模で平坦地から斜面にかけて設定した。平坦地側の表土を掘り下げたところで古墳の盛土と考えられる第3・4層を確認した。

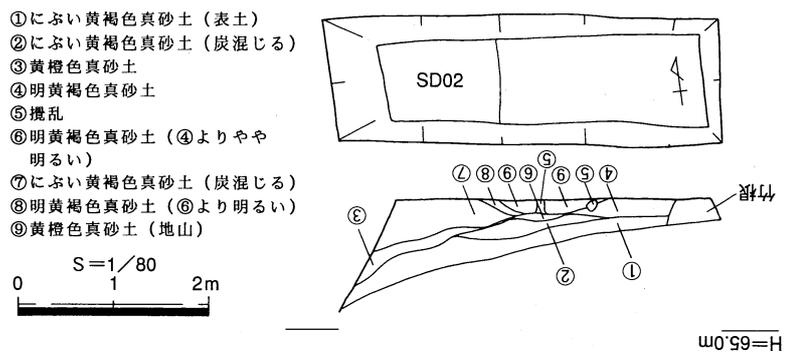
遺物は確認できなかった。



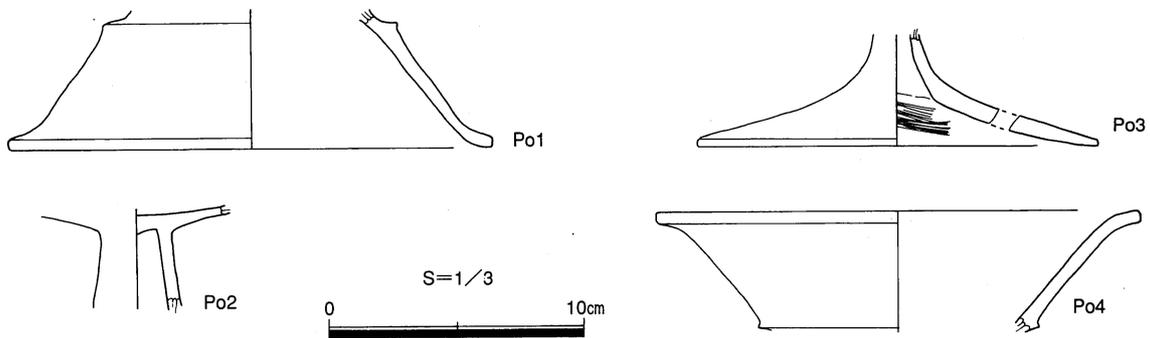
挿図12 大口古墳群第2トレンチ平面図及び土層図



挿図13 大口古墳群第3トレンチ平面図及び土層図



挿図14 大口古墳群第4トレンチ平面図及び土層図



挿図15 大口古墳群出土遺物実測図

出土位置	土器番号	取上番号	品種	法量 (cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
T 2	Po1	06	土師器 鼓形器 台	② 5.5△ ③ 19.0※	「ハ」字状に開く脚部。端部は外反し丸くおさめる。屈曲部の稜は突出する。	内外面……風化著しく不明	密	良好	内外面とも黄橙色	
	Po2	04	土師器 高杯	② 4.0△	受部、脚部とも端部を欠く。	内外面……風化著しく不明	密	良好	内外面とも鈍い黄橙色	
T 3	Po3	05	土師器 高杯 脚部	② 4.4△ ③ 15.7※	大きく「ハ」字状に開く脚部。5mm程度のすかしが3箇所ある。	外) 不明 内) ハケ目	密	良好	内外面とも濃い黄橙色	
	Po4	06 07	土師器 鼓形器 台	① 19.0※ ② 4.8△	「ハ」字状に開く受部。端部は外反し丸くおさめる。屈曲部の稜はやや上方に突出する	内外面……風化著しく不明	密	良好	内外面とも濃い黄橙色	

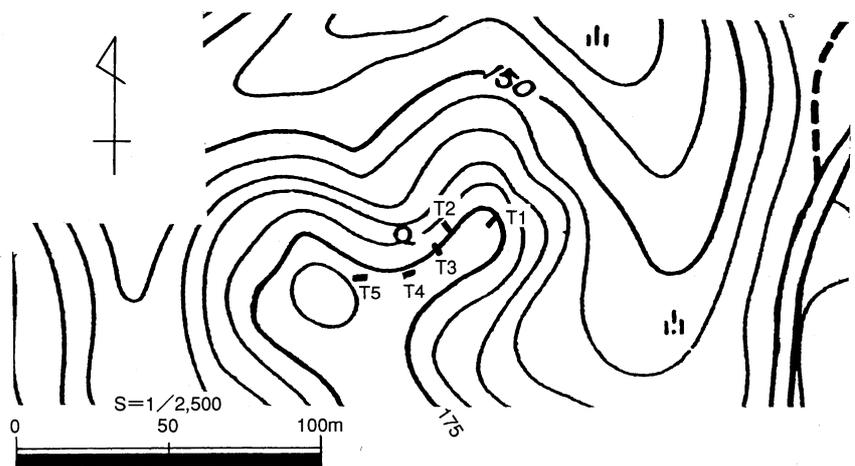
註…法量の○数字は次のとおりとする。①口径、②器高、③底部径、である。復元した計測値に※印、残存値に△印を付した。

表 6 大口古墳群出土遺物観察表

第5節 鳴滝宮坂遺跡

(1) 調査の方法

この遺跡の周辺には道を挟んで山田横道遺跡が存在し、その続きの尾根上であることから以前から遺跡が存在する可能性が多分にあると考えられていた。このため農地造成が考えられている区域の尾根上の平坦面を中心に1.5m×4.0mの規模を基準としたトレンチを5カ所設定し、掘り下げを行った。



挿図16 鳴滝宮坂遺跡トレンチ配置図

(2) トレンチの概要

第1・第2・第5トレンチ

これらのトレンチは開発区域内の東側の平坦地から斜面地にかけて設定した。これらのトレンチは約20cm程度掘り下げたところで地山に達したが、遺構は確認できなかった。また土師器が少量出土しているが斜面部からの出土で上部からの転落と考えられる。

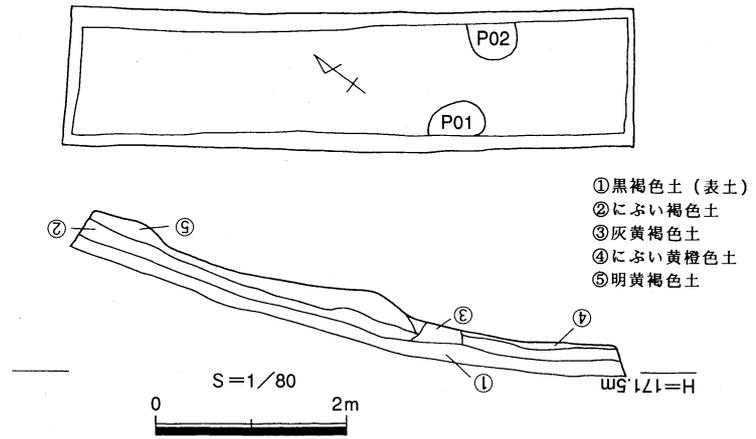
トレンチ番号	トレンチの規模 (m)	遺構	遺物
T 1	1.3×4.0		土師器
T 2	1.3×4.7		土師器
T 3	1.5×6.0	ピット	土師器
T 4	1.5×4.0		土師器
T 5	1.5×5.0		土師器

表7 鳴滝宮坂遺跡トレンチ一覧表

第3トレンチ

このトレンチは開発区域内の平坦地から斜面地にかけて1.5m×5.0mの規模で設定した。このトレンチでは表土を20cm程度掘り下げたところで、第2層に達した。トレンチのほぼ中央部にピット(P01)と考えられる落ち込みの土層を確認した。さらに掘り下げたところで地山に達した。

遺物は土師器が出土しているが、いずれも小片のため図化できなかった。

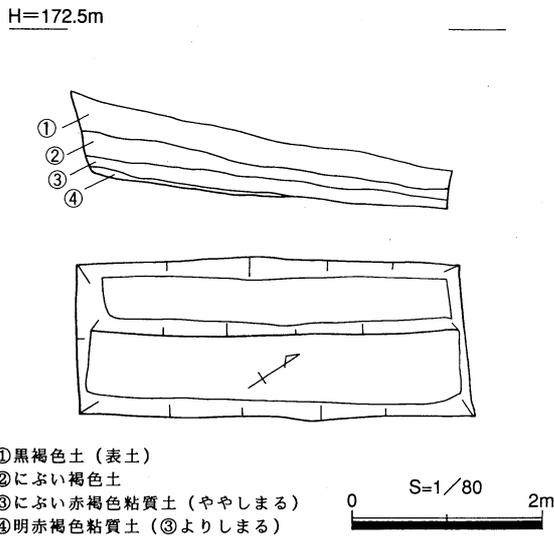


挿図17 鳴滝宮坂遺跡第3トレンチ平面図及び土層図

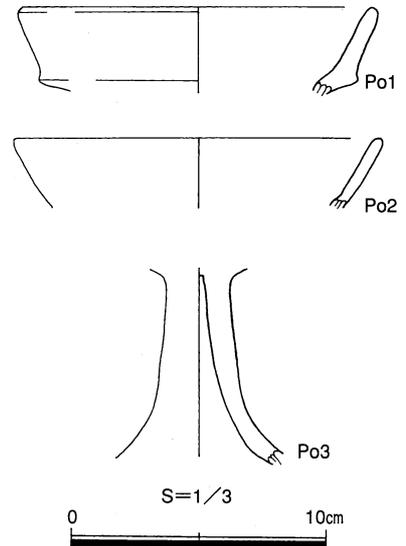
第4トレンチ

このトレンチは開発区域内のほぼ平坦地に1.5m×4.0mの規模で設定した。このトレンチでは表土を25cm程度掘り下げたところで第2層に達した。さらに20cm程度掘り下げたところで地山に達した。

遺構は検出できなかった。遺物は第2・第3層より土師器が出土しており、図化できたものは甕(Po01・02)、高坏(Po03)である。



挿図18 鳴滝宮坂遺跡第4トレンチ平面図及び土層図



挿図19 鳴滝宮坂遺跡出土遺物実測図

出土位置	土器番号	取上番号	品種	法量 (cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
T 4	Po1	01	土師器甕	②13.7※ ② 3.4△	直立気味に外反して立ち上がる複合口縁。端部は押さえた面を持つ。口縁部内面は指押さえにより窪む。	内外面……ナデ	密	良好	外) 黄橙色 内) 黄橙色	外面にスス付着
	Po2	02	土師器甕	②14.4※ ② 2.8△	ほぼ垂直気味に立上り外反する複合口縁端部は丸くおさめる。	内外面……ナデ	密	良好	外) 褐灰色 内) 褐灰色	外面にスス付着
	Po3	03	土師器高坏	② 8.2△	脚部にかけて「ハ」字状に広がる。	内外面……風化著しく不明	密	良好	外) 灰色	

註…法量の○数字は次のとおりとする。①口径、②器高、③底部径、である。復元した計測値に※印、残存値に△印を付した。

表 8 鳴滝宮坂遺跡出土遺物観察表

第 6 節 養郷村内出土地

(1) 調査の方法

この出土地の周辺には養郷古墳群、阿古山古墳群などの古墳群があり、山裾に住居跡等の可能性が考えられた。このため開発区域内に1.5m×5.0mを基準としたトレンチを3カ所設定し掘り下げを行った。

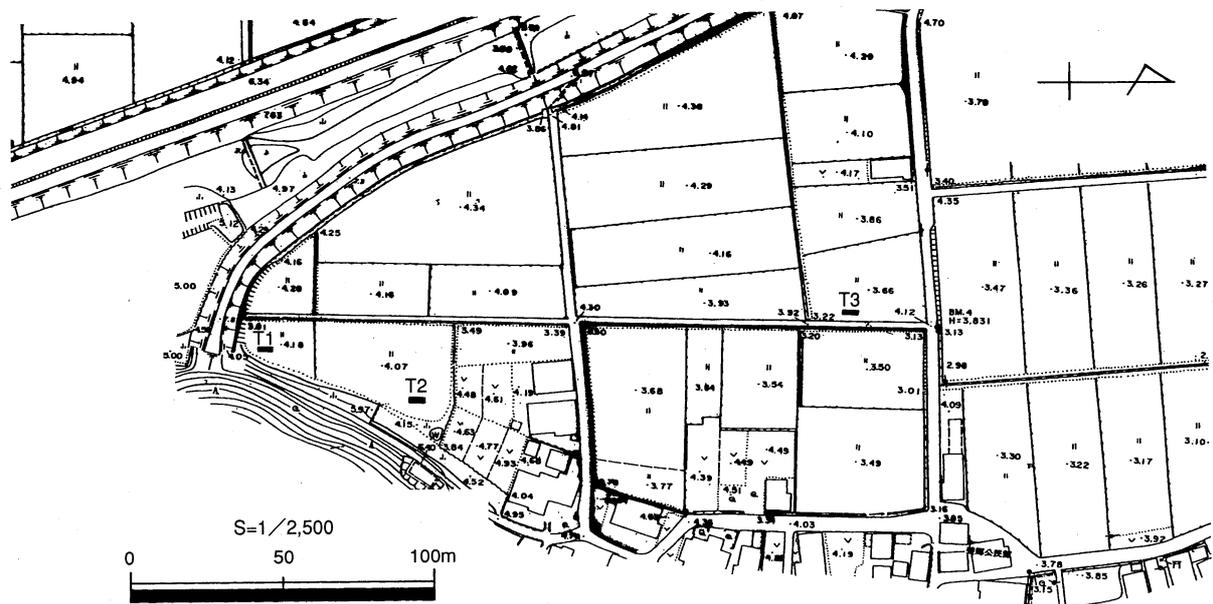
トレンチ番号	トレンチの規模 (m)	遺構	遺物
T 1	1.5×8.0		土師器須恵器
T 2	1.5×5.0		土師器
T 3	1.5×5.0		

(2) トレンチの概要

第1～第3トレンチ

これらのトレンチは開発区域内の山裾に近い部分に設定して掘り下げを行った。これらのトレンチでは表土を除去するとマコモを含む粘質土になり、さらに掘り下げるとやや砂を含む層に変わる。このため、どのトレンチでも壁面あるいは下層より湧水が著しくなり、掘り下げを断念しなければならなかった。

表 9 養郷村内出土地トレンチ一覧表



挿図20 養郷村内出土地トレンチ配置図

遺構は検出できなかった。遺物としては第1・第2トレンチより土師器、須恵器が出土している。いずれも小片のため図化できなかった。

第7節 山根上式田出土地

(1) 調査の方法

この試掘調査は、和紙の里建設事業に伴って、開発予定区域内において実施した。

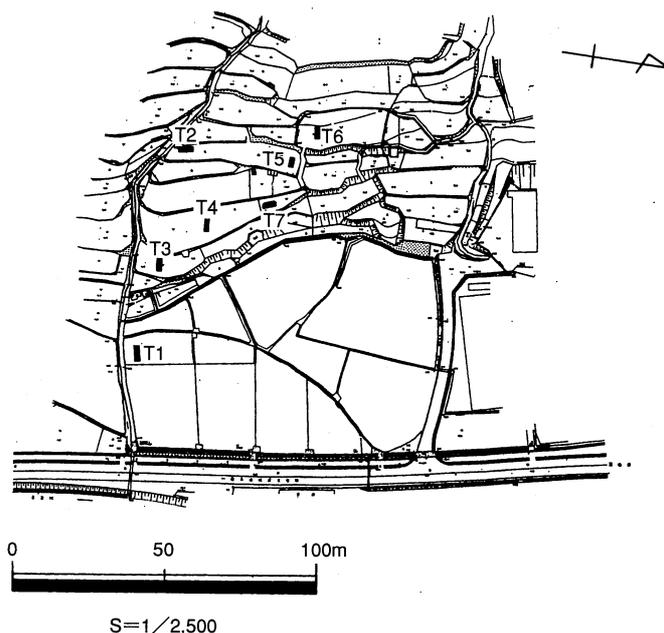
この区域では、少量の土器が表採されたため、遺跡の存在を確認することを目的に、1.5m×4.0mの規模を基準として、7カ所のトレンチを設定し、順次掘り下げていった。

(2) トレンチの概要

第1トレンチ

このトレンチは、開発予定区域の南東部に設定し掘り下げた。

このトレンチでは、厚い川砂混じりの礫層が確認された。



挿図21 山根上式田出土地トレンチ配置図

第2～5・7トレンチ

これらのトレンチは、開発予定区域の南西部の緩斜面に設定し掘り下げた。

これらのトレンチでは、耕土下に礫混じりの層が堆積し、扇状地形形状であることから、上部からの土砂堆積後水田が造成されたと考えられる。

これらのトレンチでは遺構は確認できなかった。

また第7トレンチでは、堆積土層中で土師器及び須恵器小片が出土したが、実測はできなかった。

トレンチ番号	トレンチの規模 (m)	遺構	遺物
T 1	1.4×5.0		
T 2	1.7×4.6		
T 3	1.5×4.2		
T 4	1.4×4.0		
T 5	1.4×3.3		
T 6	1.6×3.7		土師器
T 7	1.3×3.6		土師器 須恵器

表10 山根上式田出土地トレンチ一覧表

第6トレンチ

このトレンチは、開発予定区域の西側中央部に設定し、約40cm掘り下げたところで地山に達した。

このトレンチでは遺構は検出できなかった。遺物は土師器片が3点出土したが、小片のため実測はできなかった。

第4章 ま と め

(1) 善田古墳群

善田古墳群における今回の調査では、開発区域内の中央の尾根上に設定した第1～第4トレンチでは遺跡を確認することはできなかった。開発区域内北側の尾根上に設定した第5～第10トレンチのうち、第6・第7トレンチで周溝を確認し、古墳を確認することができた。開発区域内南側の尾根上に設定した第11～第16トレンチのうち、第12・第14トレンチで遺構を確認することができた。

以上のことから開発区域内の北側と南側の尾根については発掘調査が必要である。また今回の調査で新たに確認した古墳は善田14号墳と命名する。

(2) 露谷漆ヶ坪出土地

露谷漆ヶ坪出土地における今回の調査では、第2トレンチで遺物を確認することができたが、遺構は確認できなかった。また遺物は摩耗が著しく周辺からの流れ込みと考えられる。

以上のことから開発区域内に遺跡は存在しないと考えられる。しかし周辺の尾根上には露谷古墳群が存在し、それに伴う住居跡等が確認できないことから周辺の開発にあたっては十分注意する必要がある。

(3) 青谷上寺地遺跡

青谷上寺地遺跡における今回の調査では、遺構・遺物は確認できなかった。また以前発掘調査を実施した結果と照らし合わせたが、遺物包含層を確認することはできなかった。

以上のことから開発区域内に遺跡は存在しないと考えられる。しかし青谷上寺地遺跡はまだ正確な範囲が確認されておらず、これからこの周辺で行われる開発計画については十分に注意する必要がある。

(4) 大口古墳群

大口古墳群における今回の調査では、尾根上に設定した第1～第4トレンチで遺物を確認することができた。また第2・第4トレンチでは周溝、第3トレンチでは主体部と考えられる落ち込みを確認することができた。

以上のことから開発区域内には古墳4基の存在が確認できた。このため開発にあたっては発掘調査を実施する必要がある。

(5) 鳴滝宮坂遺跡

鳴滝宮坂遺跡における今回の調査では、尾根上の平坦地に設定した第3トレンチでは土器及び遺構を確認することができたが、やや斜面地に設定した第1・第2・第4・第5トレンチでは土器を確認することはできたが遺構を確認することができなかった。

以上のことから開発区域内の平坦地を中心に遺跡は広がると考えられる。このため開発にあたっては発掘調査を実施する必要がある。

(6) 養郷村内出土地

養郷村内出土地における今回の調査では、第1・第2トレンチで土師器・須恵器を確認したが、摩耗が著しく周辺からの流れ込みと考えられる。

以上のことから開発区域内に遺跡は存在しないと考えられる。しかし周辺の尾根上あるいは斜面地に

古墳が存在することから周辺の開発にあたっては十分に注意する必要がある。

(7) 山根上式田出土地

山根上式田出土地における今回の調査では、第6・第7トレンチで土師器等小片が数点出土したが、遺構は確認できなかった。遺物は摩耗し、堆積土中から出土していることから上部からの流入であると考えられる。

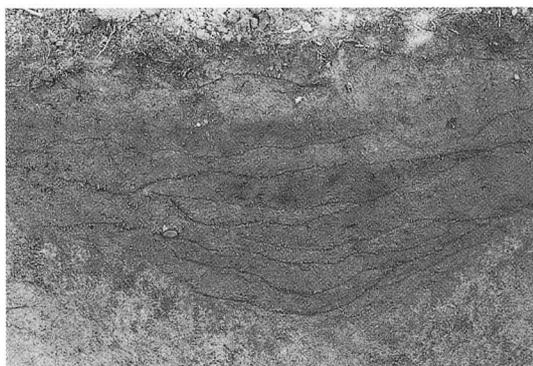
以上のことから開発区域内に遺跡は存在しないと考えられる。しかし土師器等が散布していることから周辺の開発にあたっては十分に注意する必要がある。

参考文献等

- (1) 『青谷町誌』青谷町誌編さん委員会 1984年
- (2) 『青谷上寺地遺跡発掘調査報告書1・2』財団法人 鳥取県教育文化財団 2000年
- (3) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書VI』青谷町教育委員会 1997年
- (4) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書VII』青谷町教育委員会 1998年
- (5) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書VIII』青谷町教育委員会 1999年
- (6) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書IX』青谷町教育委員会 2000年
- (7) 『弥生時代の鳥取県』鳥取県埋蔵文化財センター 1988年
- (8) 『鳥取県史』1 原始・古代 鳥取県
- (9) 『大口古墳群発掘調査概報』青谷町教育委員会 1980年
- (10) 『大口遺跡群発掘調査報告書』青谷町教育委員会 1985年
- (11) 『大口古墳群発掘調査報告書』青谷町教育委員会 1989年
- (12) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書III』青谷町教育委員会 1994年
- (13) 『大口第3遺跡発掘調査報告書』青谷町教育委員会 1994年
- (14) 『カヤマ遺跡試掘調査報告書』青谷町教育委員会 1982年
- (15) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書IV』青谷町教育委員会 1995年
- (16) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書V』青谷町教育委員会 1996年
- (17) 『旧石器・縄文時代の鳥取県』鳥取県埋蔵文化財センター 1988年
- (18) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書I』青谷町教育委員会 1992年
- (19) 『鳥取県の古墳』鳥取県埋蔵文化財センター 1986年
- (20) 『鳴滝宮ノ前遺跡発掘調査報告書』青谷町教育委員会 2000年

図

版



善田古墳群 第6 トレンチ土層



善田古墳群 第7 トレンチ土層



善田古墳群 第13 トレンチ



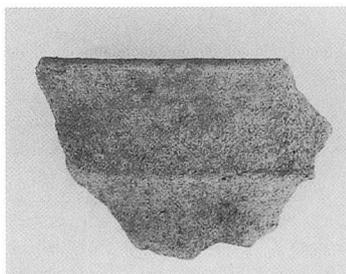
善田古墳群 第14 トレンチ土層検出状況



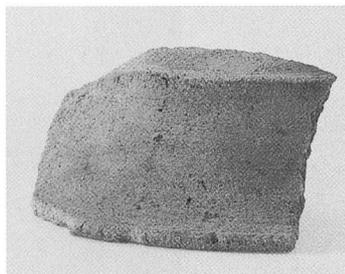
善田古墳群 第14 トレンチ遺物出土状況



善田古墳群 第14 トレンチ土層



Po01



Po02



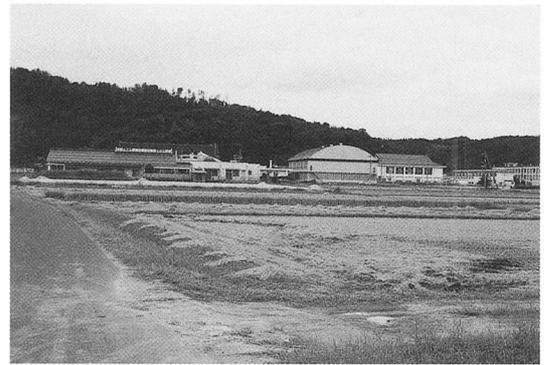
Po03

善田古墳群 出土遺物

図版 2



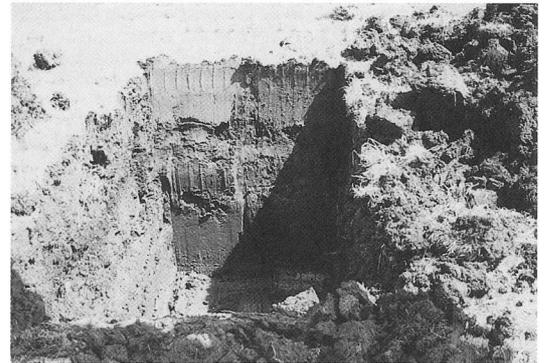
露谷漆ヶ坪出土地第2トレンチ



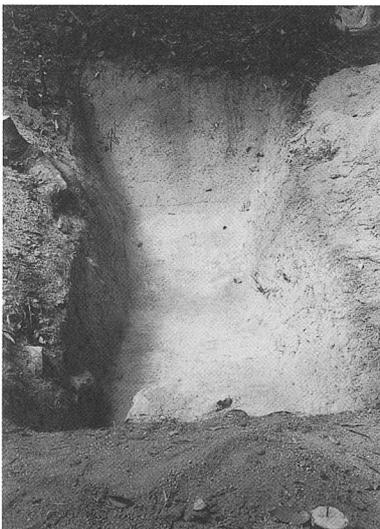
青谷上寺地遺跡 遠景



大口古墳群 遠景



青谷上寺地遺跡第2トレンチ



大口古墳群第2トレンチ



大口古墳群第2トレンチ土層



大口古墳群第2トレンチ遺物出土状況



大口古墳群第4 トレンチ



大口古墳群第3 トレンチ



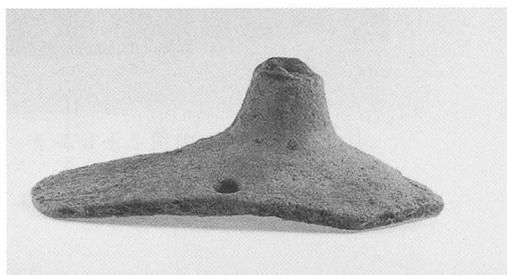
Po01



Po02



Po03



Po04
大口古墳群 出土遺物



鳴滝宮坂遺跡 遠景



鳴滝宮坂遺跡第3 トレンチ

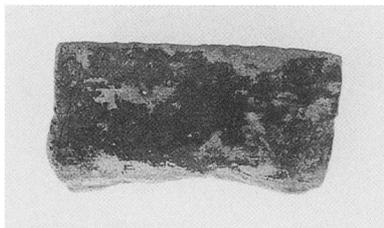


第3 トレンチピット検出状況

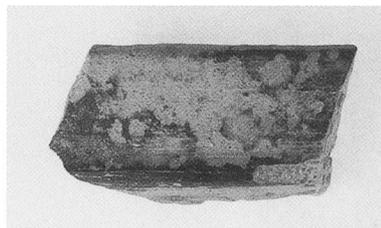


鳴滝宮坂遺跡第4 トレンチ

図版 4



Po01



Po02

鳴滝宮坂遺跡出土遺物



Po03



養郷村内出土地 遠景



山根上式田出土地第7トレンチ



養郷村内出土地第3トレンチ

報告書抄録

ふりがな	あおやちやうないいせきはつちやうさほうこくしよ							
書名	青谷町内遺跡発掘調査報告書X							
副書名	善田古墳群、露谷漆ヶ坪出土地、青谷上寺地遺跡、大口古墳群、鳴滝宮坂遺跡、山根上式田出土地、養郷村内出土地 試掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	青谷町埋蔵文化財報告書							
シリーズ番号	第19集							
編集者名	森 佳樹、加川 崇							
編集機関	青谷町教育委員会							
所在地	〒689-0592 鳥取県気高郡青谷町青谷667番地 TEL 0857-85-2529							
発行年月日	2001年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
よしだこふんぐん 善田古墳群	あおやちやうないいせきはつちやうさほうこくしよ 青谷町大字おあざ 善田字オノ尾	31343	1-173	35° 30' 05"	134° 00' 08"	2000. 1.12~ 2000. 3.16 2001. 2.22~ 2001. 3. 7	55.55 55.2	真砂土採取事業
つゆだにうるしヶ 露谷漆ヶ坪出土地	あおやちやうないいせきはつちやうさほうこくしよ 青谷町大字おあざ 露谷字漆ヶ坪	31343	1-427	35° 30' 20"	133° 59' 57"	2000. 3. 1~ 2000. 3. 3	24.0	宅地造成
あおやちやうないいせきはつちやうさほうこくしよ 青谷上寺地遺跡	あおやちやうないいせきはつちやうさほうこくしよ 青谷町大字おあざ 善田字傍示ヶ崎	31343	1-82	35° 30' 30"	134° 00' 00"	2000. 4. 3~ 2000. 4. 4	32.65	福祉施設建設事業
おおぐちこふんぐん 大口古墳群	あおやちやうないいせきはつちやうさほうこくしよ 青谷町大字おあざ 大坪字大口	31343	1-119	35° 29' 07"	134° 00' 40"	2000. 8.21~ 2000. 9.19	30.7	真砂土採取事業
なるたきみやさかい 鳴滝宮坂遺跡	あおやちやうないいせきはつちやうさほうこくしよ 青谷町大字おあざ 鳴滝字宮坂	31343	1-437	35° 29' 10"	133° 59' 06"	2000. 9.25~ 2000.10. 3	33.81	農地造成
やまねかみしきだ 山根上式田出土地	あおやちやうないいせきはつちやうさほうこくしよ 青谷町大字おあざ 山根字上式田	31343	2-7	35° 27' 57"	134° 01' 06"	2000.12.15~ 2000.12.21	41.94	和紙の里建設事業
ようごうむらうち 養郷村内出土地	あおやちやうないいせきはつちやうさほうこくしよ 青谷町大字おあざ 養郷字上ミ前 だ田	31343	1-377	35° 29' 58"	134° 00' 50"	2001. 2.13~ 2001. 2.20	27.0	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
善田古墳群	古墳	古墳	周溝、ピット、土壇	土師器		試掘調査として実施		
露谷漆ヶ坪出土地	散布地	古墳	なし	土師器		試掘調査として実施		
青谷上寺地遺跡	散布地	古墳	なし	なし		試掘調査として実施		
大口古墳群	古墳	古墳	周溝、土壇墓	土師器		試掘調査として実施		
鳴滝宮坂遺跡	散布地	古墳	ピット	土師器		試掘調査として実施		
山根上式田出土地	散布地	平安	なし	土師器、須恵器		試掘調査として実施		
養郷村内出土地	散布地	古墳	なし	土師器、須恵器		試掘調査として実施		

青谷町埋蔵文化財調査報告書19

青谷町内遺跡発掘調査報告書Ⅹ

(善田古墳群、露谷漆ヶ坪出土地、青谷上寺地遺跡、
大口古墳群、鳴滝宮坂遺跡、養郷村内出土地及び
山根上式田出土地試掘調査報告書)

発行 2001. 3

発行者 青谷町教育委員会

〒689-0501 鳥取県気高郡青谷町大字青谷667番地

T E L (0857) 85-2529

印刷 勝美印刷株式会社

鳥取県東伯郡羽合町長瀬

T E L (0858) 35-4411